

## ①高松の盆栽について

高松市の鬼無地区から国分寺地区にかけては、全国の松盆栽のシェア約8割を占めており、その歴史は約200年も前から続いていると言われています。

高松市の盆栽作りの歴史は、文化年間（1804年～1818年）に高松市西部の鬼無・国分寺地区の愛好家が山野に自生する松を掘り、鉢植えに仕立てたのが始まりとされています。

その後、盆栽づくりは、農家の副業として周辺一帯に広がりを見せる中で、盆栽を専業とする農家も現れ、今日の隆盛を見るに至りました。樹形の美しさに加え、水はけのよい砂壤土で育った松は「根腐れしにくく、傷まない」として定評があり、田園に松盆栽が広がる風景が独特です。今では盆栽の世界的な愛好家の増加を受け、アジアはもとよりヨーロッパ、アメリカなどへも輸出されるようになっています。



高松の盆栽は、雨が少なく温暖な瀬戸内地域の豊かな自然環境と高い技術をもった盆栽作家の方たちによって守られてきた高松の伝統です。

